



名寄市まちなか再生・活性化プロジェクト

名寄まちなか**未来**宣言

～人が集い、つながり、暮らしを楽しむまちを目指して～

令和8年5月
名寄市

これは「完成した計画」ではなく、
皆さんと未来を描くための
「出発点」です。

名寄らしいまちなかの姿を考え、
暮らしの質（ウェルビーイング）を高めていく。
そのために、私たちは新しいアプローチを提案します。

本資料は、現状を知り、私たちのまちの「強み」を
活かした未来を共有し、これから4年間かけて
具体的な形を一緒につくっていくためのご提案です。
ここから、市民の皆さまと対話を重ね、計画を発展
させていきます。

本資料は、（株）まちづくり名寄「名寄市まちなかランドデザイン」やこれまで市民の皆さまからいただいたご意見を参考に、まちなかの将来像や方向性について、今後、議論を深めるための「たたき台」として作成しました。完成した計画ではなく、これから市民の皆さまとともに検討を重ねて、発展させていくものです。



はじめに ～なぜ今、再生が必要なのか～

・名寄市西3条南6丁目を核としたエリア※（以下、「まちなか」という。）は、これまで多くの人が行きかい、買い物や交流の場として、市民の暮らしを支えてきた**名寄市の中心部**でした。

※「名寄市立地適正化計画」では検討の結果、中心生活交流拠点を中心市街地 1 か所（JR名寄駅周辺）に絞り込む「中心市街地再構築型」を選択。JR名寄駅～名寄市立総合病院をメインストリートとして、まちの魅力向上や商業エリアの活性化、拠点施設の整備、公共交通サービスの充実を掲げ、コンパクトなまちづくりを目指して、ここを中心に「都市機能誘導区域」を設定

・近年、人口減少の加速度的な進行、社会環境やライフスタイルの変化などにより、まちなかを取り巻く状況は大きく変わりました。**来街者の減少や空き店舗の増加等の商店街の衰退、公共施設を含めた建物の老朽化などまちなかの活力の低下**が大きな課題として指摘されています。まちなかの賑わいが失われると、消費経済活動の低迷はもとより、人々の交流や、文化・社会活動の低下などをまねきます。

・一方で、まちなか周辺には**現在も、都市機能や地域資源が集まっています。駅や病院、商業施設のほか、市民活動や地域コミュニティなど、多様な人や活動が集積していることは大きな強み**です。

・本市には、大学や高校があり、学生の存在も重要な要素です。**若い世代がまちなかで活動することにより、新しい交流や経済活動がうまれる可能性**もあります。

・商店街では、地域の人から愛される老舗店や遠方から観光客が訪れる有名な飲食店のほか、新規開店もあり、すべてのポテンシャルが失われたわけではありません。

・また、近年では、本市においても外国人材を積極的に受け入れ、介護、飲食、物流等、多岐にわたる業界で人口減少下での経済活動を支えてくださっています。

・社会経済情勢の変化に対応し、持続可能なまちづくりをすすめるため、今、我々は、**20年・30年先の未来をみすえて、これらの資源を生かし、誰もがこれからも住み続けたいと思える、名寄らしいまちなかの姿を考えていくこと**が求められています。

・令和 8 年4月に、本市と連携してまちづくりをすすめる **(株) まちづくり名寄**が、『**名寄市まちなかランドデザイン**』を策定しました。まちなかが将来にわたり持続的に機能し、ウェルビーイング（広義の幸福・多面的な幸せを表す言葉）の向上を目指すため、行政のみならず、**市民・事業者・学生・関係人口など多様な担い手が共有するための「長期的な目標像」・「具体的な取組の道筋」が明示**され、いまある**ヒト・モノ・コト**を起点に、PDCAを繰り返しながら、「**名寄らしい暮らし**」を市民の皆さまとともに育てていく**提案**となっています。

・本資料は、上記のランドデザインやこれまで市民の皆さまからいただいたご意見をもとに、まちなかの将来像や方向性について、今後、議論を深めるための「**素案**」として作成しました。**完成した計画ではなく、これから市民のみなさまとともに検討を重ねながら、発展させていく**ものです。

・名寄のまちなかに、**多様な人々が集い、小規模ながらも社会・文化・経済活動を生み出すことで、まちなかの再生を図る。そのような、新しいまちなかの未来を市民の皆さんと一緒に考えていきます。**

はじめに ～なぜ今、再生が必要なのか～

過去：暮らしを支えた中心部



西3条南6丁目を核としたエリア。
これまで多くの人が行きかい、
市民の暮らしを支えてきた中心部。

現在：深刻な課題



人口減少の加速度的な進行、
建物の老朽化、空き店舗の増加。

強い危機感：まちなかの賑わい喪失は、消費経済の低迷だけでなく、人々の交流や文化・社会活動の低下を招く。このままではいけない。

はじめに ～なぜ今、再生が必要なのか～



名寄のポテンシャルは決して失われていない。
今ある「資源」の集積こそが、最大の強みである。

これまでの歩み ～まちなかに関係する取組経過～

- 人口減少下においても持続可能で利便性の高いコンパクトなまちづくりへの転換を目的として、「名寄市立地適正化計画」を令和2年に策定しました。さらには、令和4年には「名寄市公共施設等再配置計画」を策定し、「名寄市公共施設等総合管理計画」（平成28年策定）及び「名寄市公共施設個別施設計画」（令和3年策定）と「名寄市立地適正化計画」の連携を推進し、コンパクトなまちづくりをすすめるため、まちなかへの公共施設の再配置を検討してきました。
- 老朽化が著しい図書館については、「名寄市公共施設等再配置計画」に則り、令和4年の市民ワークショップや庁内委員会をふまえて、複合施設としてまちなかへの新規整備が決定していましたが中学校の改築・改修、東病院のまちなか移転の検討等があり、複合施設の整備年次にずれが生じています。
- 現在、「第3次 名寄市総合計画」（令和8年度末策定予定）の策定作業がすすめられており、本市の厳しい財政状況と進展する人口減少をふまえて、今後、「名寄市公共施設等総合管理計画」、「名寄市公共施設等個別施設計画」、「名寄市公共施設等再配置計画」の見直しにより、公共施設の統廃合など、施設量や行政サービスの最適化を図ります。
- 上記の検討状況にあわせて、図書館を有した複合施設につきましても、「まちなか再生・活性化プロジェクト」の取組の中で、引き続き検討いたします。

●まちなか活性化の取組実績●

市内事業所数の減少が進む中、下記の取組等により対応してきました。

<中小企業振興条例補助金>

○創業支援事業

創業・起業の際に店舗改修等に係る費用の一部を支援。

また、まちなかで出店する際には、補助限度額の加算や

賃料も補助対象とし、まちなかへの誘導を図ることで

空き店舗の活用や賑わい創出にもつながる取組を実施。

○街なかにぎわい創出支援

地域経済活性化に資するイベント開催に要する費用の

一部を支援。商店街でのイベント実施ではイベント参加者が、

商店街を周遊することで各店舗の集客にも貢献。

<名寄市電子地域通貨Yoroca>

令和5年11月から導入により、これまでのサービスの一体化や新たな地域活性化の取組が可能となり、域内での経済循環により、地域経済の活性化につながる取組。令和7年度時点では利用加盟店は250店舗超となっている。



まちなかのいま ～名寄で活躍するヒト・モノ・コト（＝まちの資源）について～

市と連携してまちづくりをすすめる（株）まちづくり名寄が策定した『名寄市まちなかランドデザイン』では、まちなかの課題を追求するのではなく、すでにある「ヒト・モノ・コト（＝まちの資源）」を出発点として、まちなかの再生に向けて、市民の皆さんが主役となるまちづくりへのヒントが提案されています。

変化の激しい時代において、遠い未来から逆算する「バックキャストिंग」だけでは、まちづくりの将来像を検討することが難しくなっています。

だからこそ、いま、名寄のまちなかにある「ヒト・モノ・コト」を出発点として、検討・実証・改善を繰り返しながら前に進む「フォアキャストिंग」の視点が重要となります。

まちづくり名寄が描く 「名寄市まちなかランドデザイン」

遠い理想を押し付けるのではなく、
今ここにある「ヒト・モノ・コト(＝まちの資源)」を出発点として、
次の一手を考える「フォアキャストिंग」の視点で未来を描きます。



フォアキャストिंग



足りないものを嘆くのではなく、
すでにある名寄の魅力を
つなぎ合わせるアプローチです。

社会経済情勢の変化に対応し、持続可能なまちづくりをすすめるため、今、我々は、20年・30年先の未来をみずえて、これらの資源を生かし、これからも誰もが住み続けたいと思える、名寄らしいまちなかの姿を考えていくことが求められています。

まちなかのいま ～名寄で活躍するヒト・モノ・コト（＝まちの資源）について～

『名寄市まちなかランドデザイン』（（株）まちづくり名寄）要約
※詳しくは、上記をご覧ください（<https://nayorocci.or.jp/pages/141/>）

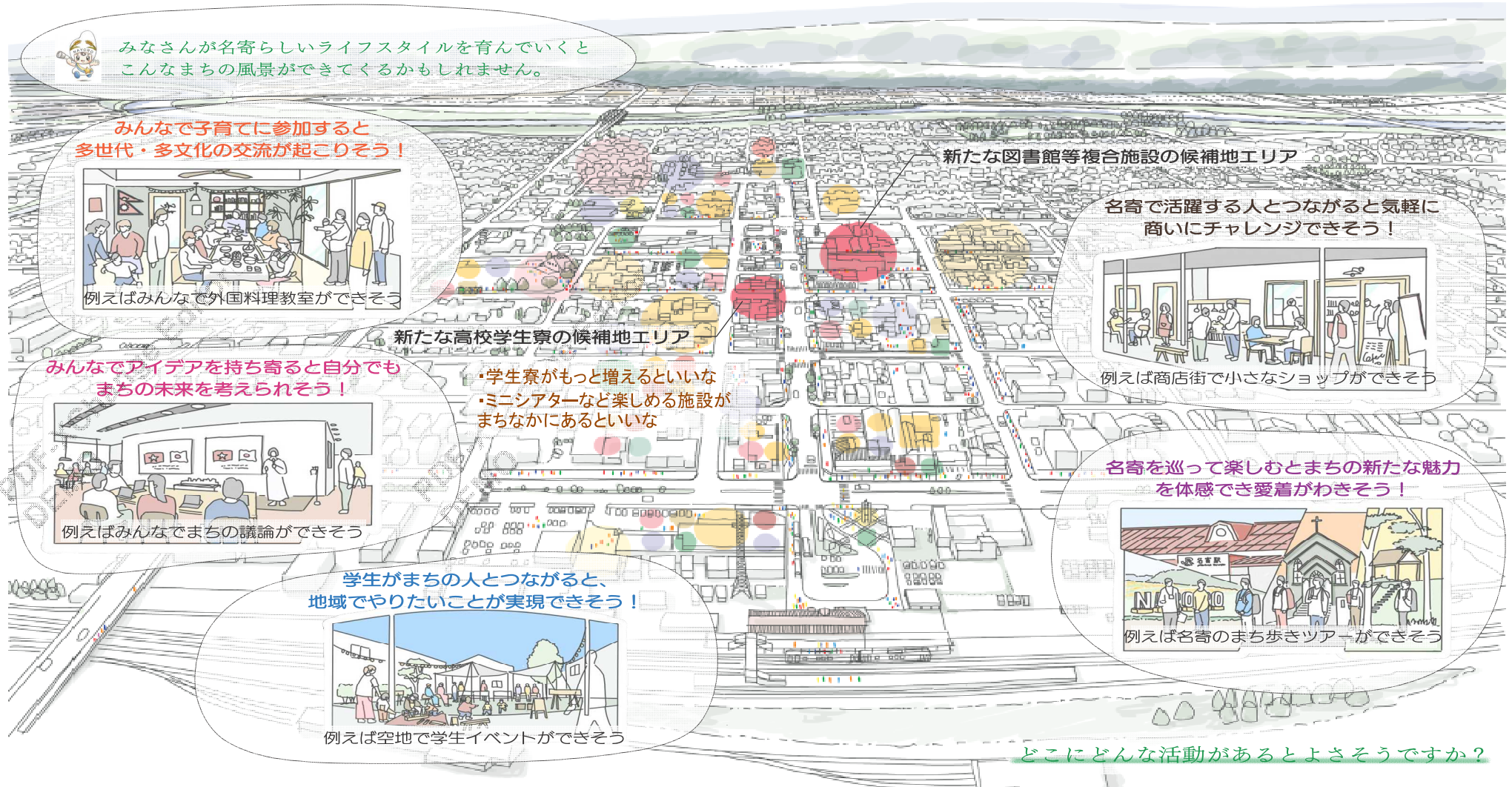
まちの主役は、名寄で活躍する「ヒト・モノ・コト」



長く愛される老舗、挑戦する若者、地域を支える農家や医療・福祉の担い手。
名寄にはすでに素晴らしいライフスタイルを育む資源が溢れています。

この一人ひとりの活動が掛け合わさることで、名寄独自の温かい魅力が生まれます。

まちなかのいまから描く、再生後のまちなか将来イメージ



みなさんが名寄らしいライフスタイルを育んでいくと
こんなまちの風景ができてくるかもしれません。

みんなで子育てに参加すると
多世代・多文化の交流が起こりそう！



例えばみんなで外国料理教室ができそう

新たな図書館等複合施設の候補地エリア

名寄で活躍する人とつながると気軽に
商いにチャレンジできそう！



例えば商店街で小さなショップができそう

みんなでアイデアを持ち寄ると自分でも
まちの未来を考えられそう！



例えばみんなでまちの議論ができそう

新たな高校学生寮の候補地エリア

- ・学生寮がもっと増えるといいな
- ・ミニシアターなど楽しめる施設が
まちなかにあるといいな

学生がまちの人とつながると、
地域でやりたいことが実現できそう！



例えば空地で学生イベントができそう

名寄を巡って楽しむとまちの新たな魅力
を体感でき愛着がわきそう！



例えば名寄のまち歩きツアーができそう




どこにどんな活動があるとよさそうですか？

市民の声 ～名寄市公共施設等再配置計画推進に向けた市民ワークショップより～

令和4年度に、「名寄市公共施設等再配置計画」に掲げる対象施設（図書館等）について、市民ワークショップを開催しました。市民ワークショップでは、「住み続けたい、まちの未来」、「まち中に欲しい機能」等についてご検討いただくうえで、まちなかの施設に必要な機能等をご意見いただきました。

市民ワークショップが導き出した結論は、 「人が集まることで生まれる豊かさ」です



1. 未来像の共有：「人が集まることで生まれる豊かさや創造性をしっかり発揮できるまち」
2. 具体的提案①【ついで利用の創出】：単一機能の施設ではなく、カフェやコワーキング、広場など「ついで利用」ができる複合的な拠点（図書館等）を創るべき。
3. 具体的提案②【中心市街地への集約】：車を使わず歩いて楽しめるよう、「歩きたいと思える距離（約400m）、歩くことができる距離（約800m）」を基準とし、今後の公共施設は中心市街地へ集約することが望ましい。

市民の声 ～名寄市公共施設等再配置計画推進に向けた市民ワークショップより～

市民ワークショップで見えてきた「本当に欲しい場所」



【多世代交流】

「人が集まり、多世代が自然に関われる場所が必要」



【多目的空間】

「一つの目的だけでなく、複合的に利用できる柔軟な場所がいい」



【歩きたくなるまち】

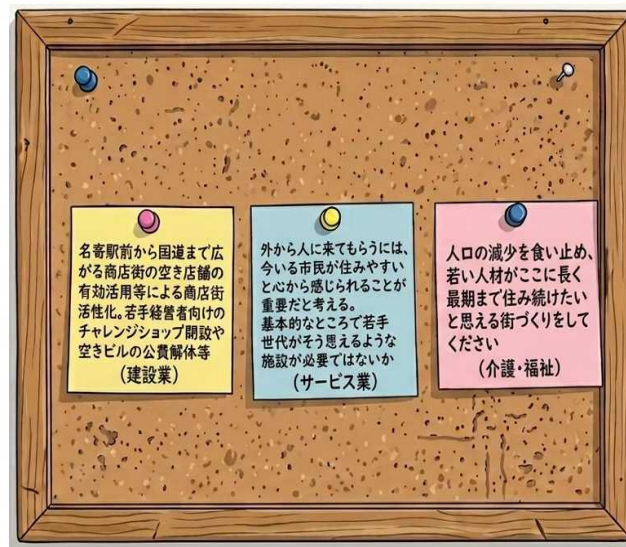
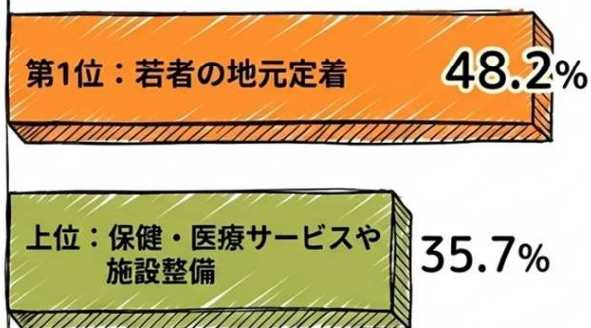
「施設単体ではなく、まち全体として人が歩いて巡りたくなる環境づくりが重要」

市民の声 ～「名寄市総合計画（第3次）」アンケート～

現在、名寄市では、まちの将来像と実現するための方針や具体的な取組を示すために、「名寄市総合計画（第3次）」を準備しています。市民の皆さまと行政が一体となって計画づくりを進めるため、令和7年度に、各種団体・学生・市民の皆さまから、まちづくりに関するご意見を伺うため、アンケート調査を実施しました。その中から、「まちなか再生・活性化」に関連するご意見をまとめました。

若者が残りたくなるまちとまちなかの再生を 求めるご意見が多くありました

総合計画アンケートより



アンケート報告書より M PLUS Rounded 1c

圧倒的1位：駅周辺地域の活性化

80.7%

第2位：徒歩圏内の日用品購入等の利便性向上

57.8%

「お店を増やしてほしい」(小3)

「中高生が楽しく遊べる場所を作ってほしい」(小3)

「スタバやファミマなどの店を作って、増やしてほしい」(小1)

「娯楽施設をさすがにもう少し増やしてほしい」(高3)



市民が求めるまちなか再生の方向性～市民ワークショップ・総合計画アンケートより～



まちなか将来イメージ・方向性の実現を目指して 市が提案する3つの取組方針

取組方針① 多文化・多世代交流の拠点づくり

遠くにいても「ここに来れば
誰かに出会える」まちへ。
市民のサードプレイスとなる
活動の拠点づくり。

- 複合施設（図書館機能、
イベントスペース、ミニカフェ）
- 居住環境と国際交流
(若者のまちなか居住、若者活動支援)



まちなか将来イメージ・方向性の実現を目指して 市が提案する3つの取組方針

取組方針② 消費経済活性化による賑わい創出

気軽に「小商い（小さな起業）」にチャレンジできる支援を通じて、人が集まり、消費が生まれ、賑わうまちへ。

- ・ 創業支援・チャレンジショップ
- ・ 人と人とのマッチング・イベント
- ・ 地域通貨「yoroca」の活用

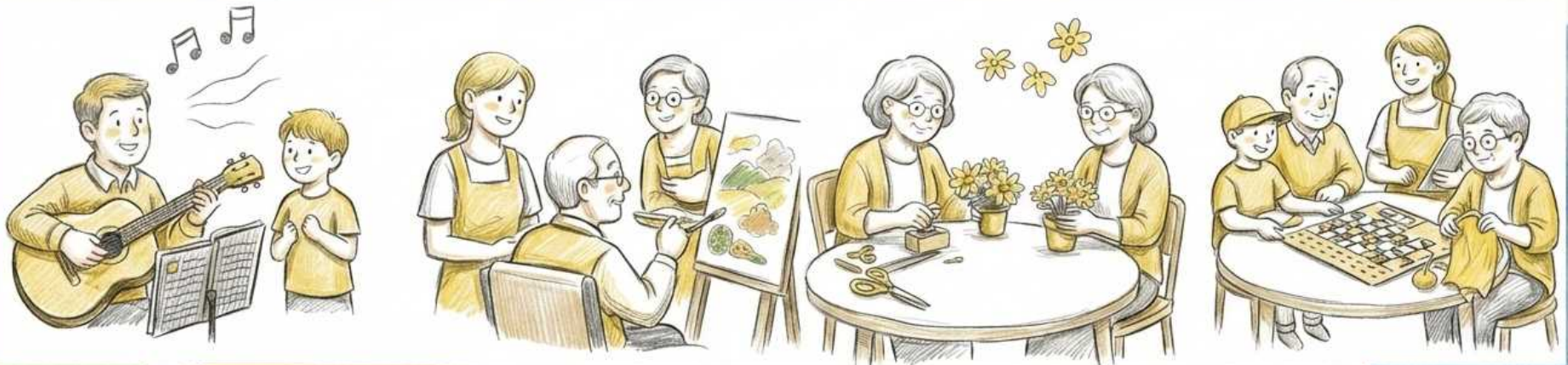


まちなか将来イメージ・方向性の実現を目指して 市が提案する3つの取組方針

取組方針③ Well-Being（心身の健康と幸福）の実現

最終的なゴールは「住んでよかった」と思えるまち。
人と人がつながり、まちの資源を生かして、
自分にできる活動を気軽にはじめることで自己実現へ。

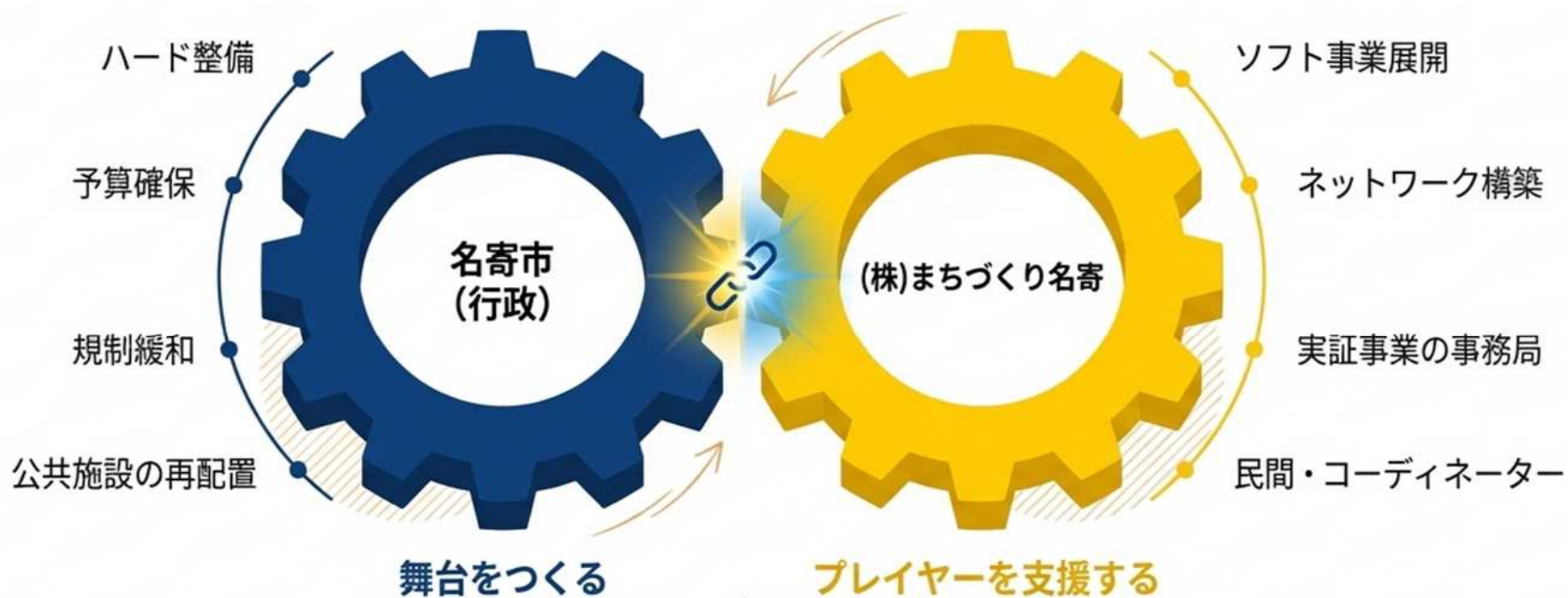
- ・サークル活動（市民が心の豊かさを育む）
- ・まちづくり有志団体（市民主体の社会的なつながり）



まちなか再生・活性化の推進～体制と役割～

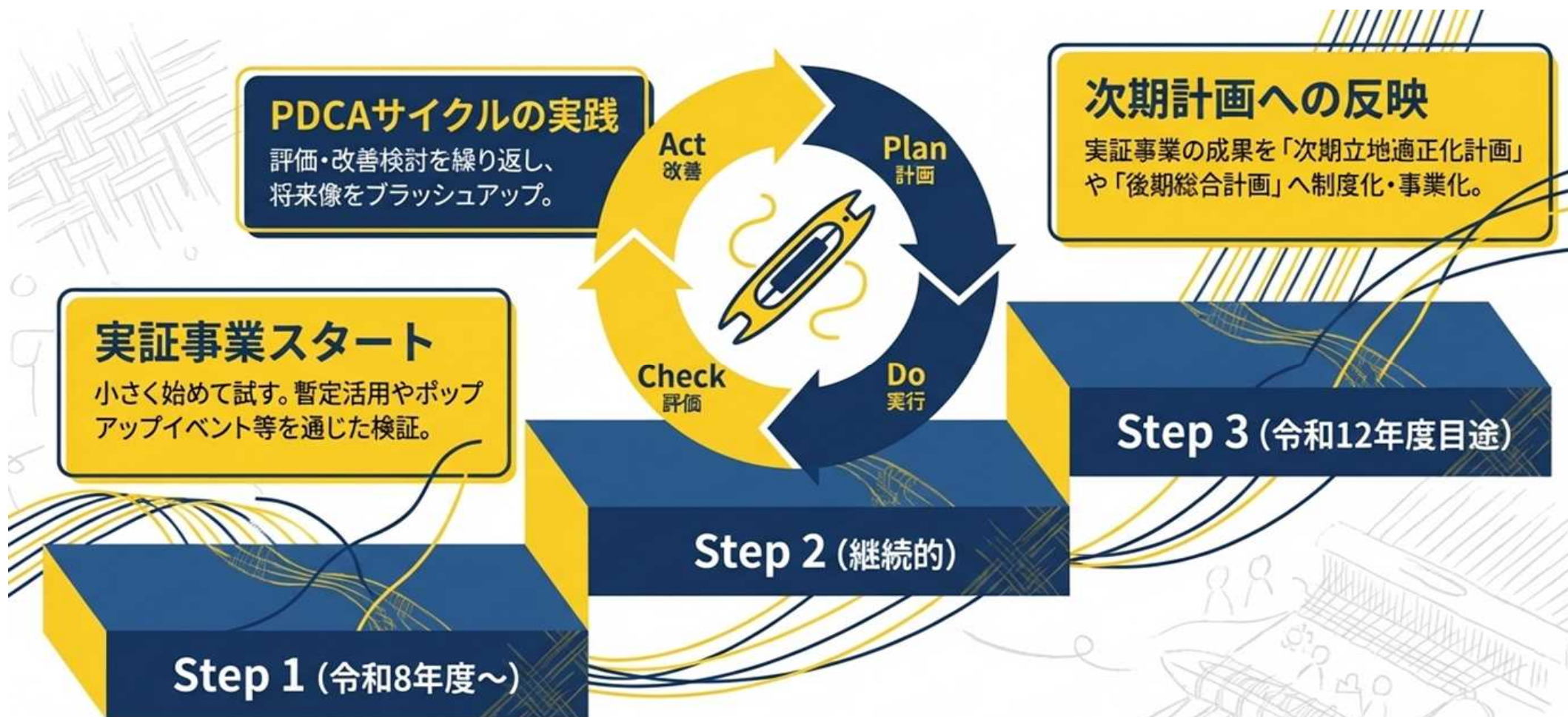
まちなか再生・活性化に向けて、(株)まちづくり名寄・市民の皆さまと連携してすすめていきます。

ハード（施設）を整備するだけでは、まちなかは再生・活性化しません。小さいなソフト（取組・事業）と掛け合わせ、積み重ねることで、「人が集い、つながって、豊かさが生まれ、暮らしを楽しむまち」ができます。



共創の仕組み：両輪が噛み合うことで、持続可能なまちづくりが推進される。

まちなか再生・活性化の推進 ～ロードマップ～



新しいまちなかの未来を、一緒につくりませんか？

まちなか再生・活性化は、名寄市に関わるすべての人々のプロジェクトです。
今後、（株）まちづくり名寄と連携して市民ワーキングチームを結成し、市民の皆さまとともに取り組みます。



☆ あなたのアイデアが、
☆ 名寄の新しい日常を
つくります。
ぜひ、一緒に
まちなかの未来を考え、
カタチにしていきましょう！ ☆

あしがき ～名寄市が一丸となって～

まちなか（中心生活交流拠点）の再生は、
名寄市全体の未来を守るための第一歩です。

現在、風連地区や智恵文地区が抱える課題にも並行して取り組んでいます。
中心部の活力を取り戻すことは、周辺地区への波及効果を生み、
連携を深めるための重要な鍵となります。

名寄市全体の地域力を未来へ引き継ぐために
地区ごとの分断ではなく、「名寄市が一丸となって」
この持続可能なまちづくりに取り組んでまいります。

市民の皆さま一人ひとりの想いと行動が、このプロジェクトの最大の推進力です。
一緒に、暮らしを楽しむ名寄の未来を描きましょう。